



寄り添い 伸ばす

荒川区立原中学校

学校だより

12月号-2

令和6年12月25日

荒川区立原中学校

校長 村松 弘一

熱く！夢を語れますか？

校長 村松 弘一

三者面談と並行して、3年生の入試に向けて面接練習を行いました。私は生徒に、「中学校を卒業すると新しい進路に踏み出しますが、例えば、高校進学は自分の将来の夢を実現するための手段にすぎません。大学進学も然りです。」といつも言っています。

現在都立高校の入試で使われている「自己PRカード」は、私が以前、都立高校の入試担当をしている時、平成19年度入学者選抜の時に改定しました。その当時、都立高校には、目的意識を強くもたずに入学し、学ぶ意義が見出せず中途退学をしてしまう生徒が少なからずいました。目的意識をもって入学し、充実した学校生活が送れる生徒を選抜するため、推薦選抜と面接を実施する都立高校で「自己PRカード」を面接資料として活用することとしました。書く内容は、次の3点です。

1 志望理由について

(この学校を志望した理由と入学してから自分が取り組みたいと思うことなどについて)

2 中学校生活の中で得たこと

(中学校生活の中で自分が特に伝えたいことを学校内外で体験したことから選び、その中から自分が得たこと)

3 高等学校卒業後の進路について

(将来の夢や目標、将来なりたい職業など、高等学校卒業後の進路について考えていること)

都立高校の面接で「自己PRカード」に基づき、当該都立高校の志望理由が明確で、中学校生活を通して身に付けたことをさらに向上させて、都立高校卒業後に、「なりたい自分」を実現できるよう高校で頑張ることができる生徒を選抜することにしました。

例えば、

- ① **学校の先生になりたい** →教員免許が必要 →教員免許を取得できるに大学に進学する
- ② **医師になりたい** →医師免許が必要 →医学部に進学する必要がある →医学部は難易度が高い
→難易度の高い医学部入試をクリアするため、都立高校でいうと、医学部進学実績がある進学指導重点校やSSH(スーパーサイエンスハイスクール)に進学する →入学後は、自己の夢実現に向け目的意識をもち、全力で高校生活を送る。というようになりますが・・・。

入学できる学校ではなく、入学したい学校を自らの力で選択し、夢の実現に向けて、力強く突き進んでほしいものです。生徒諸君、10年後を見据えて「ゴール・ピープル」になりましょう！明確な目標（ゴール）を設定し、それに向かって勉強や仕事をするタイプの人を「ゴール・ピープル」といいます。

私の面接練習では、「自己PRカード」の内容を踏まえて行っています。まだ、しっかり自分の意志を確立している生徒は少ないようです。保護者の方や面談で担任に相談して自分の進路に向けて準備しましょう。

面接練習の中で将来の夢・職業を訪ねると、ある生徒が「YouTuber」と答えました。職業も以前に比べて大変多様化しています。「YouTuber」になるための進路はどうなるでしょうか？①、②のように、わかりやすい道筋があるわけではありません。高校や大学に進学せずとも、著名「YouTuber」はたくさん存在します。トップクラスの「YouTuber」の場合、年収は億を超えるとも言われています。生徒ならずとも、「YouTuber」になることに夢を抱くことは無理もないことです。「YouTuber」は基本的に、自分が好きなことや関心のあることをやって一攫千金できる職業かもしれません。

私が大学を卒業したのは、かれこれ30年以上も前になります。その当時は、「名の知れたブランドの大学に進学し、名の知れた企業に就職し、そして定年まで勤め上げ、十分な年金をもらいながら悠々自適な老後を過ごす」のがエリート街道でした。そんなブランドの大学名、企業名にすがって生きていく生き方は、もはや令和の時代には**おわコン**になりつつあります。

先日、最難関と言われている「司法試験」に、現役の高校2年生が合格したというニュースを見ました。その生徒は、公民の授業が好きで、討論形式で日常的な題材をもとに議論することが好きになったそうです。六法全書で勉強し始めると、社会や法の仕組みを勉強するほど、もっと知りたいという意識になったそうです。「学ぶ楽しさ」、「知る喜び」を極めた結果の「司法試験」合格です。

皆さんも、自分の好き・特技を極めた先には、明るい未来が待っていますよ。 **Good Luck !**